

2015年度 通期業績見通しの修正[IFRS] ネットカンファレンス質疑応答

【開催日】 2016年3月24日（木）18:30～19:05

【出席者】 常務執行役員 CFO : 内野 州馬
執行役員 主計部長 : 増 一行
IR 部長 : 武久 裕

【質疑応答】

Q. 資産を全般的に見直して減損が発生しているが、どこまで見直しているのか。銅価は300セント前後まで引き下げているが、その他資源関連商品の中長期価格見通しは。

- A. ● 全ての資産を対象に見直しを実施した結果、現時点で他の減損懸念案件は無い。
● 銅価はチリ銅事業での減損額の大きさに鑑み、中長期価格見通しレベルを開示したが、銅以外の資源関連商品の中長期価格見通しについては、今後の投資戦略に係る重要な情報であること等により、非開示としている。

Q. AAS以外の銅案件で減損が出ていないのはなぜか。

- A. ● 他の銅案件は一般投資であり、IFRSでは非連結の資源投資に関してはP/Lで減損計上せず、B/S上（その他包括損益）で時価評価している為。

Q. 減損後、償却負担はどの程度軽くなるのか。

- A. ● 大きいものではAASの操業鉱区の減損によって、年間70億円程度改善する見込み。

Q. 最近の非資源の大型投資案件について、どの程度減損リスクを考えればいいのか。

- A. ● 現時点では、減損リスクはないと考えている。

Q. 減損による自社株買いへの影響は。

- A. ● 次期中期経営計画の枠組みの中で検討しており、然るべきタイミングで説明する。

Q. 減損による格付への影響をどう考えているか。

- A. ● 減損は、キャッシュ・フローに影響を与えない一時的な損失である上、減損処理後もネットDERは1.0倍前後に留まる見通しであること等から、財務健全性は維持していると考えているが、今後格付機関と議論していく。

以 上